舌切り雀

じっちゃとばばと、まずいであったわけだ。そこで、じっちゃまだやっぱり、山さ柴刈りに行って、ばばまだ家にいで、川さ洗濯に行ったわけだ。じっちゃまだ、雀っこ一羽、連できたわけだ、山がら。毎日、糊っこ喰へでえ、育てたど。じっちゃまだ山さ行ったし、ばばまだ、家に居で、雀っこに糊っこ喰へたわけだ。なんぼ喰へても、「喰て」っていうわけだ。「えーい、この雀、うるしぇい」って、舌切ったげって、外さ飛ばしてやったわけだ。したば、知らねふりしてるばって、じっちゃあがって来たべし、「雀どうしたば、居ねで、こらぁ」って言ったば、「げー、うるしぇしてしゃぁ、舌切ったげて、オレ、飛ばしてやったでぇ」って言ったわけだ。したば、じっちゃ、可哀想だってしゃぁ、「舌切り雀、どーさ行った。舌切りすーずめ、どーさ行った」って捜しに行ったわけだ。したば、山さ行ったば、雀っこ居で、じっちゃに「よく迎えにきてくれたって。おめどさ、宝物けっちゃぁ」って、大きた箱と小ちゃい箱を並べたわけだ。「じっちゃ、おめいいどご来たしゃぁ。ちぃちゃいやつ、けってえ」って、じっちゃさ、そのちっちゃい箱っこけたわけだ。じっちゃ、家さ、背負って来たわけだ。「ばばぁ、雀見つけてしゃ、この宝物もらって来たでえ」って、したわけだ。開いてみたば、金からじぇんこから、宝物じっぱり入っているわけだ。欲張りばんばまだ、「へば、オレも行くでぇぁ」ってしたば、「舌切り雀どーさ行った」って叫んで行ったわけだ。やっぱり、山奥さ行ったば、雀っこいて、「あば、よく来てけだなぁ。今まで育ててもらったもの、オメどさも宝物けるためにしゃぁ、オメどさ、この大きた箱けってぇぁ」って。ばばまだ喜んで、「じっちゃでもあやものもらったもの、おらやじい、なんだらもの入ってらべが」と思って、背負ってきたわけだ。さぁ、家さ来て開いて見だば、なぁんーでぎゃぁ、蛇だの、おっかねんだもの、けだものずっぱり入っているわけだ。ばばもなんもびっくりして、びっくりしてしまって死んだったが、悪くなったたが。それでとっぴんぱらり。

野村セツ（檜山　94歳）

〔解説〕

全国的に有名な物語である。原話には、舌切り雀を探す際に、牛の血を呑んだり、馬の血を呑んだりしなければならない難題があり、それをクリアして雀に会うことができることになっているが、明治以降

教科書に「舌切り雀」が登場するようになって、この難題は省かれるようになった。ここにあげた「舌切り雀」は教科書型の標準的な話である。しかし北秋田郡阿仁地方には、馬の小便を呑めばとか、牛の小便を呑めばという条件がついた形で残っている。重い葛籠（つづら）・軽い葛籠はどの話にも共通している。